

## 令和元年度第2回半田市図書館協議会議事録

開催日時	令和2年1月22日(水)	14時00分～15時30分
開催場所	半田市立図書館 第3会議室	
会議次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 第2次半田市子ども読書活動推進計画策定について 4. その他	
出席委員 (欠席委員)	(会長) 前田佳男、(副会長) 内藤菜穂 (委員) 横井 学、竹内元宏、小島典子、新美正巳、小宮山清子 石川幸子、榊原伯明 (欠席) 杉江則人 ※敬称略	
教育部	教育長 鈴川慶光、教育部長 岩橋平武	
事務局	図書館長 山下由美、副主幹 戸田豊志、副主幹 田村元成、主査 竹内由香、主事 鈴木雄介	
次 第	議事概要	
1. 開会		
2. 挨拶 (教育長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力、学習状況調査における半田市の子どもの読書への関心度は、全国に比べると平均より5～10%高いが、ここ5～10年の推移は下降気味である。</li> <li>・「本でも読んでおきなさい」という時代からスマホを買い与える時代へと変わってきている。色々な取り組みを通して、本を渡せる環境を整えば良い。</li> <li>・計画策定にあたり、情報メディアの発達への対応や外国の子どもへの対応、新美南吉や郷土愛などの事項を盛り込めていければ良い</li> </ul>	
(教育部長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの読書活動の推進に関する法律第2条「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであること」から、子どもにとって読書は大切であり、今後も読書活動推進に取り組んでいかなければいけないと感じている。</li> </ul>	
	事務局より資料に沿って説明。(事務局) <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次半田市子ども読書活動推進計画の策定について(諮問)</li> <li>・半田市子ども読書活動推進計画 取組と成果</li> <li>・半田市子ども読書活動推進計画 目標と課題</li> <li>・(案) 第2次半田市子ども読書活動推進計画骨子</li> </ul> (委員) ストーリーテリング参加者の低年齢化が進んでいる。ほとんど保育園や幼稚園の子なので、小学生に何とか来てほしい。ナイトライブラリー開催時に、読み聞かせと	

ストーリーテリングを行っているが、その時は小学生が多く来館する。

(事務局)

色々なイベントを行っているが、その点は課題と捉えている。

(委員)

資料4 ページ一番上の、家庭・地域における子どもの読書活動の推進、乳幼児期からの読み聞かせの啓発は、あかちゃんとしょかんとして実施しているが、配付する読書手帳が、保護者にすごく喜ばれている。最近では20組に1組くらいが外国人の方なので、対応が課題。

(委員)

3か月児健診にはどのくらいの参加者がいるのか。

(委員)

たくさんの方にお越しいただいている。

(事務局)

あかちゃんとしょかんで貸出券を作られた方は、その後も図書館に来て読み聞かせ会などにも参加いただいている。赤ちゃんを連れて図書館に行つてはいけないと思っていた方もいるようで、この点からも大きな成果だと思う。

(教育部)

他の来館者から苦情はあるのか。

(事務局)

新聞を読んでいる人からクレームがあったが、近くにいた他の来館者から「子どもだから多めに見てあげてもいいのでは。」とフォローがあった。社会全体で子育てを応援しようとする流れがあるのだと思う。

(委員)

あかちゃんとしょかんで参加者に対して説明を行う人はいるのか。

(事務局)

ボランティア団体の「あっぷっぷ」が中心に説明を行っている。

(委員)

きりんの会はメンバーの高齢化が進んでいる。保育園、幼稚園、小学校等で読み聞かせを行っているが、読み手が不足している。小学校全体でのボランティア等の情報を取りまとめいただければ、読み手不足解消につながるかもしれない。今後、情報共有を図っていただくと助かる。

(事務局)

取組の中で課題と捉えているので、検討していく。

(教育部)

学校によって差はあるかもしれないが、情報交換会ならすぐにでも取り組めると思う。

(委員)

私は大府市にあるあいち健康プラザで工作教室を手伝っている。そこでも参加者の低年齢化が進んでいる。言葉を増やし使い方を学ぶのは小学校の中学年くらいからだと思うので、その時期に本に触れてほしい。小学3～6年生をターゲットに考えることが大事。中学生くらいになると、本を読む人は自ら進んで読んでいるが、読まない人は全然読まない。読まない人にむけた対策が必要と感じる。

(教育部)

全国学力、学習状況調査における中学生の不読率が6%も上がっている。原因を確かめる必要がある。

事務局より資料に沿って説明。(事務局)

- ・アンケート(案)
- ・第2次子ども読書推進計画策定までの主体別スケジュール(案)

(委員)

アンケートの対象は何年生か。

(事務局)

小学校5年生と中学校2年生が対象。

(教育部)

あかちゃんとしょかん等、乳幼児に向けた取り組みが増えてきているが、アンケートの対象は小中学生のままで良いのか。

(事務局)

前回と比較検証をするために対象はそのままとしていた。

(委員)

8ページ設問11を見ると、図書館としか表記がないため、市の図書館なのか学校の図書館なのかわからない。こういった学校現場目線の意見は反映してもらえるのか。

(事務局)

意見を反映できるようにしていく。

(委員)

学校と図書館に対して伺いたい。まず学校に対して、朝の読書を止めた学校はあるか。朝の読書を大切にしたい。次に図書館に対して、外国籍の子どもへの対応が必要と思っている。ニューヨーク公共図書館では、わずかな日本人のために日本語の図書を提供している。日本でも国際交流コーナーを設置して外国語の絵本を置いている図書館もある。巡回文庫などにも対応していただけるとよい。もう一つは、日頃、図書館では素早く丁寧なレファレンスなど、気持ちの良い対応をしてくれているが、高齢者への対応でよくない事案を聞いた。安心して来館できる雰囲気を作って欲しい。

(事務局)

高齢者への事案については、職員間で共有し、レベルアップを図っていく。また、外国人への対応などは、取り組めるものから取り組んでいく。

(委員)

朝の読書については調査をしていないが、やめたとは聞いていない。来年度からカリキュラムが変わるため、読書をやめる学校もあるかもしれない。学校ではやるべきことが多いので難しいが、読書を一切無くすのは良くないことなので、継続を呼びかけていく。

(委員)

図書館は丘の上で駅からも遠い。子ども達はどうやって来ているのか。

(事務局)

閉館間際頃にごんくるバスを利用する中学生を見ることはある。ただ、小学生は少ない。

(事務局より事務連絡)

(会議終了 午後 3 時 30 分)